

十勝地方も根雪の様相を呈している。連日真冬日の寒波で、先月に降雪した雪が融けるどころか、氷になり、危なっかしいばかりでなく、除・排雪も数倍の体力・時間を要する状況だ。

さて、十勝地方は海岸部を除けば、開基（先住民であるアイヌの人々にとってはこの上ない不愉快な言葉なのだろう、最近では「開基」という言葉の使用を控えつつあるようだ。）高々120年位である。十勝地方にも内地のあちこちから開拓団が移住して、十勝を今のような肥沃な日本の食料基地に育て上げてきた。開拓当初の苦労は、晩成社の例を見るまでもなく、並大抵ではなかったろう。彼らは、出身地域の「おらが村の鎮守様」を分祀し、それぞれの地方独自の郷土芸能を夫々の地域に持ち込み、開拓の安穩を祈念し八百万の神に感謝を捧げ、遙かなる故郷・共通の故郷に思いを馳せ、共同社会の一体感を確かめ合う為に、神楽や獅子舞を舞い踊ったに相違ない。また、新天地には、新たな文化の芽が育つものであり、それが時間を経るに従い郷土芸能として定着していくものだ。まさに、伝来のものと創作されたものが渾然と共存する所に当地の郷土芸能の特色がある。

勝毎（かちまい）と称される十勝毎日新聞社の「WEB TOKACHI」の「十勝の広場」にリストアップされている「十勝地方の郷土芸能」を参考としつつ、十勝地方の郷土芸能を瞥見する。

① 神楽

神楽は神前で神をまつるために演じられる神事芸能であり、宮中における御神楽に対して民間での神楽を里神楽と称し、巫女神楽、採物神楽、能神楽、湯立神楽、獅子神楽に大別出来るという。巫女神楽は、巫女による神がかりの託宣がなされる舞であり、湯立神楽は、神聖な湯花に触れて祝福を得んとするもので、獅子神楽は、獅子頭を権現とあがめ、潔め鎮めの獅子舞を舞うものである。採物神楽と能神楽は対になっており、出雲流と呼ばれる。神楽は神を勧請し、神に感謝し、神と人とが一体になる為の神事と言っても良く、日本固有の芸能である。

さて、十勝には、次に示す6つの神楽が郷土芸能として伝わっている。

- 南部神代神楽（新得町）：南部すなわち岩手県から伝来、佐幌小学校で、高学年から低学年に伝えている。町の芸能祭等に出演、鳥舞と三番叟（さんばそう）の二部構成
- 神楽（清水町）：仙台から伝来。
- 石見神楽（中札内村）：島根県石見町から伝来。豪華な衣装を纏い、凄まじい形相の面を付けて激しい動きの神楽。記紀の物語や伝説等を演目に行っている。
- 啖別神楽（幕別町）：香川県から伝来。
- 本別神社神楽（本別町）：福島県から伝来。
- 美濃神楽(土幌町)：岐阜の美濃神楽が伝来。

② 獅子舞

獅子頭を被って舞い、踊る民俗芸能。最も古い歴史を持っている。獅子は古代日本人にとっては未見の動物であり、最強の動物との伝聞的認識と、仏教浄土の守護獣として悪霊を払う霊獣という信仰的認識から古くから国民的支持があった。獅子舞は、広く全国に分布するが、芸態により、「二人立ち」と「一人立ち」に大別される。以下の獅子舞が何れに属するか

は未確認であるので、悪しからず。

十勝の市町村に郷土芸能として伝承されている獅子舞は、「WEB TOKACHI」によれば以下の通りである。

- 矢部獅子舞（音更町）：富山県から移住した矢部部落の人に伝承
- 糠内獅子舞（幕別町）：富山県五位村から御神体と共に伝来
- 二宮獅子舞（豊頃町）：福島県から伝来、鈴舞など勇壮な踊り
- 開拓獅子舞（浦幌町）：石川・富山の開拓者が創めた
- 稲穂獅子舞（浦幌町）：石川県津幡町から伝来

③ 太鼓

太鼓について特段の説明の要はない。腹に響く和太鼓のリズムは日本人のみならず多くの者に感動を与えずにはおれない。十勝には十指を遥かに超える郷土芸能としての太鼓があるが、その殆んどが創作太鼓である。それほど、日本人にとって太鼓は縁があり、切っても切れない関係にあり、日本人の心の雄叫びである。十勝の郷土芸能(太鼓)は 17 個であり、それらは、次の通りである。

平原太鼓(帯広市)、音更駒太鼓(音更町)、狩勝高原太鼓（新得町）、清流太鼓（清水町）、開拓太鼓(清水町)、メムオロ太鼓(芽室町)、ポロシリ太鼓（中札内村）、かしの太鼓(更別村)、ナウマン太鼓(忠類村)、日方川太鼓（大樹町）、広尾小陣屋太鼓(広尾小の児童の手により始められた。)、音調津潮騒太鼓（広尾町、婦人部）、豊稔太鼓（幕別町）、義経太鼓(本別町)、雌阿寒太鼓（足寄町）、上浦幌開拓太鼓(浦幌町)、十勝川平原太鼓(音更町)

④ その他

先住民アイヌに関わる郷土芸能としては、国の重要無形民俗文化財にも指定されている帯広市の「アイヌ古式舞踊」、アイヌ白蛇姫物語をアレンジした鹿追町の「白蛇姫舞」がある。出身地に関係する踊りとして、更別村の「スッチョイサ踊り」（石川県）、池田町の「傘踊り」（鳥取県）、浦幌町留真地区の「越前踊り」（石川県）がある。

また、労働をテーマとする踊りには、南部駒踊りを原型とするものとして音更町の「十勝駒踊り」と本別町の「本別駒踊り」（子供駒も活動している。尚、道立農業大学校が伝承している。）、池田町の「アキアジ音頭」「ブドウ仕込み音頭」（細部不明だが、）「池田温度」、開拓当時の造林作業を表現した陸別町の「えぞ木やり」（陸別のシバレフェスティバルでは必ず実施している。）等がある。

(参考：百科事典、WEB TOKACHI、その他各市町村等のHP、etc)